

どうなる・どうする日韓関係～NHKラジオ放送～

NHKラジオ第一放送で2月28日（金）に「私も一言！夕方ニュース」の『夕方ホットトーク』

コーナーで「どうなる・どうする日韓関係」が放送され、当協会・財団の是永和夫専務理事が

NHKの出石解説委員よりインタビューを受けました。

当協会の最近の活動や日韓関係の理解を深めて頂くため、その内容を掲載致します。

なお、出演者は次の通り。（文中は敬称略）

司 会：出石 直 NHK解説委員（担当分野：朝鮮半島・米社会など）

出演者：是永 和夫 （一社）日韓経済協会・（一財）日韓産業協力財団 専務理事

出石： こんにちは。解説委員の出石です。今週のこの時間は、「どうなる・どうする日韓関係」

と題しまして、日韓関係の現状と将来についてお伝えしています。

今日のゲストは日韓経済協会専務理事の是永和夫さんです。是永さんは総合商社

法人、

日韓経済協会の専務理事をされています。

是永さん、今日はよろしくお願いいたします。

是永： よろしくお願ひします。

出石： まず、今の日韓関係を是永さんはどのように見ていらっしゃいますか？

是永： 昨年、2013年には両国に新政権が誕生して、明るい未来志向の関係の復活を期待

したわけですが、現状は冷えきった緊張関係が続いている。これは大変残念の一言

に尽きます。

出石： 実は是永さんは昨日ミャンマーから戻られたばかりと伺っているのですが、これは

日韓合同でミャンマーに行かれたということなんですね？

是永： そうということです。

出石： これはどういうミッションだったんですか？

是永： この背景を説明させて頂いてもよろしいでしょうか。もともと資源の乏しい日韓両国が

協力をして、第三国において金属やエネルギーなどの重要資源を確保することや、

またアジアの先進国として大変高い技術レベルを持つ両国が共同して、発展途上国

に対するインフラ輸出などの新しいビジネスを作って、結果としてその国の社会開発

に貢献していくことも大変重要であると考えています。これは、私たちが日常的にお

付き合いをしております韓国の経済界、産業界の方々も全く同じスタンスであると

いうことですね。

従って私たち日韓の経済人は、両国関係が冷えきった現在において、政治の動きと

は切り離して、このような時であればあるほど、両国の経済人が未来志向で連携

協力していくことで一致をして、まず1回目として、昨年1月に両国経済人が合同して、

インドネシアにミッションを送りました。

これは現在、日韓両国産業界が共同で進めているLNGの開発輸入のプロジェクト

を視察いたしました。

出石： それで、昨年がインドネシアで今年がミャンマーなんですね？

是永： そうです。それで、このインドネシアでは資源確保の重要性の認識はもちろんですが、

実は両国の当該企業が現地のジョイントベンチャーに若手社員を派遣して、両国の

社員の交流をここでも図るということと、それから第一線で事業経営や資源確保や

ファイナンスなど、いわゆる生きた仕事を実地に勉強させるということで、人材育成

のプラットフォームとして活用している事例も見えてまいりました。

出石： 今回はミャンマーだったわけですが、今、ミャンマーといえばブームになっていますが、

実際に行かれてみてどうでしたか？

是永： 実は昨日帰ってきたばかりですが、両国合計で約50名のミッションを構

成して、現在、

国全体の再建と整備が急務になっているミャンマーで、両国が連携して
どういうビジ

ネス、プロジェクトが作れて、結果としてその延長線上でこの国にどう
いう貢献ができ

るのかということの手掛かりを探るという目的で行ってきました。

私は今回を含めこれまで3回ミャンマーを訪問したのですが、極端にい
えば、ホテル

を一步外に出れば、そこにあるのは全て案件といっても過言ではないよ
うに思いま

した。

例えば工業用団地の造成ですとか、非常に不足している電力の問題、雨
期シーズン

の洪水対策や、その延長線上の上下水道の整備、道路の渋滞、都市部の
スラム化、

さらに救急救命等々。それから、もう一つこの国の頭の痛いところは、
若手、中堅の

実務に従事する人々の極端な不足が深刻な問題になっています。この辺
もアジア

の先進国としての日韓両国が人材育成の分野でも協力できるのではない
かという

印象を持って帰ってきました。

出石： 日韓で一緒に協力して、ミャンマーで出来ることがたくさんあるというこ
とですね？

是永： そうですね。

出石： 先ほどお話しになりましたように、日韓の政治的な関係は今、非常に冷え
きっている

わけですが、経済という点ではそれほど悪い影響は出ていないようです
ね？

是永： おっしゃるとおりです。実は両国の貿易額は、2012年には1000億ドルを
突破しまして、

これは韓国にとっては日本は第2位、日本から見て韓国は第3位という
ことで、

お互いに大変重要な位置付けになっています。

それから、日本の対韓国投資も2012年には45億ドルとなっていてまして、
これは投資

国中の第1位でした。

出石： 日本が韓国に対する最大の投資国ですか？

是永：　そうです。これは前年度比 98%という飛躍的な増加だったわけです。

それから、この年の双方の観光客などの人的な往来は 556 万人ということでした。

また今申し上げましたように、両国が他の国において、第三国において共同連携

した資源確保の案件やインフラ輸出案件が、特に 2009 年以降に多く生まれている

という特徴があります。

資源案件では、先ほど申し上げましたインドネシアの L N G のプロジェクトや、アフリカ

のマダガスカルでのニッケル開発、ブラジルのレアメタルの開発案件などがあります。

インフラではバングラデシュやトルコにおける石炭火力発電所の設置案件や、世界

各地を対象とする水インフラ案件など大変幅広く、私の承知している範囲でも 20 件

以上のプロジェクトがすでに動き出しています。

出石：　日韓というと、ついついライバル関係と捉えがちですが、むしろパートナーとして一緒

に仕事をしていることのほうが多いわけですね？

是永：　そうですね。そういうものが増えてきました。特に多くのプロジェクトが 2009 年ごろから

と申し上げたこの背景は、ご記憶のように、日韓両国ともにリーマンショックの影響が

欧州などに比べて比較的軽微だったことですね。

出石：　なるほど。早めに立ち直りましたよね。

是永：　そうです。早く立ち直りました。それから、李明博・前政権が、経済活性化政策を強く

打ち出したことが、企業の投資に対する意欲を増したと考えられます。

それから今おっしゃいましたように、何よりも当事者である企業が、日韓で組むことの

メリットと意義を十分に理解しているからこそ、このような動きになったのだと考えて

います。

出石：　経済という分野では日韓の結びつきは非常に強いままな訳ですが、今冷えきっている

日韓関係、特に政治面の関係ですね、これを改善していくためには、是

永さんは今

何がいちばん必要だとお考えでしょう？

是永： 私はこういう時だからこそ、先ほども申し上げように、日韓の当事者同士が一つの

目標に向かって進んでいくことが重要だと私は思うのですが。

出石： 2015 年、来年はちょうど日韓の基本条約が結ばれて、国交正常化してから 50 年になり

ますよね。これに向けていろいろなことが出来るのではないかという期待もあるわけで

すが、経済分野ではどんなことが今後可能だとお考えでしょうか？

是永： 2018 年の平昌（ピョンチャン）のオリンピック、それから 2020 年の東京オリンピック。

これが極めて短期間のうち、東アジアで開催されますよね。

出石： 2 年の間に韓国と日本でオリンピックがあるわけですね。

是永： オリンピックがアジアで行われるなかで、これを相互協力することをお互いに話し

合っているわけですが、このことがアジアの中での、特にこの地域での、人、モノ、

それからお金。これの動きを非常に活発にさせることにもなるのだろうと私は考えて

います。

出石： 日韓経済協会では、いろいろな人的交流のプロジェクトもされていますよね？

是永： はい。やはり次の 50 年を担うのは若者たちであるということで、特に高校生、大学生、

さらには大学院生などの交流事業を活発に行っています。実はすでに 20 回、高校生

交流キャンプという催しを行ってきたのですが、これをご説明してもよろしいですか。

出石： ぜひお願いします。

是永： これは実は、日韓それぞれ 50 名ずつ合計 100 名の高校生が 4 泊 5 日の合宿をして、

例えば日韓の観光の推進とか、健康食を普及・販売していこうとか、それからシル

バー層に対する出張介護サービスをどのように進めるとか、若者らしい、しかし現代

社会のニーズにもミートするテーマをそれぞれ決めていって、事業化していくプロセス

を、ある時は通訳に頼り、ある時は筆談も交えて議論をして、最終日に発表してもらう

のです。

発表の内容は若者らしい微笑ましいものですが、私自身このキャンプに参加して、

実は毎回子どもたちに教えられることがあります。子どもたちは、合宿の初日はお互

い緊張して、実は会話もままならないのですが、最終日には全員が抱き合って、涙を

流して別れを惜しむ光景が見られます。

そしてその後、感想文を提出してくるのですが、「僕は、私はキャンプを通じて、一生

の友達を得た。日韓両国間に難しい問題が多くあることはよく承知しているけれども、

今後は出会った仲間たちとも協力をして、自分は両国の友好の架け橋になりたいと

思う」。こういう文章を寄せてくるんです。

その時私は思うのですが、この子たちは間違いなく私たち大人を超えている。

われわれ大人は何をしているんだということも、実は毎回思います。

出石： 大人たちはいがみ合っているけれども、子どもたちのほうはもっと先を歩いていると

いうことですね。

是永： おっしゃる通りです。そういう意味で、今お話がありました、厳しい関係を改善するため

には、一緒に手をつないで、スクラムを組んで、共通の目標に向かって、それがうまく

いけば共に喜んで、またうまくいかなければ一緒に悩むような、こういう姿勢が、取り

組みが必要なんだろうと、私は考えています。

出石： 先ほどの話にもありましたように、日韓共同で出来ることはいっぱいある。それを担う

べき若い人たちも育ってきているということですね。

是永： 正にそうですね。

出石：　そうしますと、将来をあまり悲観しなくてもいいかもしれませんね？

是永：　その子どもたちを見ている限り、私は悲観していません。非常に立派です。

出石：　わかりました。今日は日韓経済協会専務理事の是永和夫さんをゲストにお招きして、

日韓関係、特に経済面での交流、それから人的な交流について、お伝えいたしま

した。

是永さん、今日はありがとうございました。

是永：　どうもありがとうございました。